

26. 分化型甲状腺癌全摘術後症例における血清 Tg 値 (IRMA 法) の変化率に関する検討——¹³¹I 初回内用療法直前・直後において——

余田みどり 川崎 幸子 山本 由佳
高橋 一枝 西山 佳宏 高島 均
田邊 正忠 (香川医大・放)
玉井 豊理 (キナシ大林病院・放)

初回内用療法直前・直後(4~7日)に IRMA 法で Tg 値の変動を測定し, ¹³¹I の治療効果判定の参考資料と

してその変化率の意義を検討した。症例は 13 例で乳頭癌 11 例, 濾胞癌 2 例である。治療直後の Tg 変化率は転移巣集積群と非集積群で差を認めなかった。転移部位別ではリンパ節転移群より肺や骨に転移のあるものは Tg 変化率が大きい傾向があった。病巣吸収線量が 50 Gy 以上のものでは Tg の変化率が大きい傾向があった。CR もしくは PR 症例と NC 症例では Tg の変化率に差はなかったが CR もしくは PR 症例では Tg の変化率が大きい傾向があった。